

【使徒書日課】コリントの信徒への手紙一 1章10～17節

¹⁰さて、兄弟たち、わたしたちの主イエス・キリストの名によってあなたがたに勧告します。皆、勝手なことを言わず、仲たがいせず、心をつにし思いをつにして、固く結び合いなさい。¹¹わたしの兄弟たち、実はあなたがたの間に争いがあると、クロエの家の人たちから知らされました。¹²あなたがたはめいめい、「わたしはパウロにつく」「わたしはアポロに」「わたしはケファに」「わたしはキリストに」などと言いつけているとのこと。す。¹³キリストは幾つにも分けられてしまったのですか。パウロがあなたがたのために十字架につけられたのですか。あなたがたはパウロの名によって洗礼を受けたのですか。¹⁴クリスボとガイオ以外に、あなたがたのだれにも洗礼を授けなかったことを、わたしは神に感謝しています。¹⁵だから、わたしの名によって洗礼を受けたなどと、だれも言えないはず。す。¹⁶もっとも、ステファナの家の人たちにも洗礼を授けましたが、それ以外はだれにも授けた覚えはありません。¹⁷なぜなら、キリストがわたしを遣わされたのは、洗礼を授けるためではなく、福音を告げ知らせるためであり、しかも、キリストの十字架がむなしなものになってしまわぬように、言葉の知恵によらないで告げ知らせるためだからです。

【福音書日課】マタイによる福音書 18章10～20節

¹⁰「これらの小さな者を一人でも軽んじないように気をつけなさい。言うておくが、彼らの天使たちは天でいつもわたしの天の父の御顔を仰いでいるのである。」
† ¹²あなたがたはどう思うか。ある人が羊を百匹持っていて、その一匹が迷い出たとすれば、九十九匹を山に残しておいて、迷い出た一匹を捜しに行かないだろうか。¹³はっきり言うておくが、もし、それを見つけたら、迷わずにいた九十九匹より、その一匹のことを喜ぶだろう。¹⁴そのように、これらの小さな者が一人でも滅びることは、あなたがたの天の父の御心ではない。」

¹⁵「兄弟があなたに対して罪を犯したなら、行って二人だけのところで忠告しなさい。言うことを聞き入れたら、兄弟を得たことになる。¹⁶聞き入れなければ、ほかに一人か二人、一緒に連れて行きなさい。すべてのことが、二人または三人の証人の口によって確定されるようになるためである。¹⁷それでも聞き入れなければ、教会に申し出なさい。教会の言うことも聞き入れないなら、その人を異邦人か徴税人と同様に見なさい。」

18ははっきり言うておく。あなたがたが地上でつなぐことは、天上でもつなぐれ、あなたがたが地上で解くことは、天上でも解かれる。19また、はっきり言うておくが、どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心をつにして求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる。20二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。」

迷い出た一匹を捜しに行く【こども説教のために】

日曜日の朝、わたしたちを目覚めさせてくださったお方が、一人ひとりをそれぞれの家から教会へと呼び集めてくださいました。

日曜日の教会に行くために、土曜日のうちから準備をし、朝も早めに家を出てきたという人も多いでしょう。けれども、朝、目覚めたとき、もしかすると、今日は教会に行かないで別のことをしようかと迷った、という人もいるかもしれません。しばらく行っていないから行きづらいと思って、教会までの道を歩く足が重く感じられた、という人もいるかもしれません。今日は教会に來たけれども、迷って結局來ることができなかったことがあるという人も、中にはいるのではないのでしょうか。それでも、今日、わたしたちは皆、ここに集められて來ました。ここにわたしたち皆をお連れくださったお方がいらっしゃるからです。

日曜日の教会に集められて、わたしたちは、神を礼拝しています。主イエスが「天の父」とお呼びになられた神の御前で、讃美を歌い、祈り、御言葉を聞きます。天上で礼拝をささげる天使たちに助けられて、神に近づき、主イエスのように親しく「天の父よ」とお呼びするのです。

心からそうすることができる人も、そうでない人も、一緒にします。心からできる人を、神はお喜びくださるでしょう。けれども、そうでない人のことを喜ばれないではありません。心から神に近づくことができなくても、そこにいることをお喜びになられるのです。礼拝堂の後ろのほうで小さくなっている人、大きな声で讃美や祈りをすることができない人を、ご存じです。そこにいてくれることを、お喜びくださっているのです。

主イエスは、「これらの小さな者を一人でも軽んじないように」とお教えにされました。百匹の羊の中の一匹が迷い出たならば、その迷い出た一匹を捜しに行かれるのです。その一匹を見つけられることを、迷い出なかった九十九匹のことよりも喜ばれるのです。

日曜日の朝、教会に集められたわたしたちは、片隅に隠れている小さな一人を大切にします。まだ見つけ出されていないかもしれない一人のことを大切に思います。今も、主イエスは、その一人を捜しに出て行かれています。その一人を見つけ出されて、お喜びになられています。

小さな者

先週の火曜日は午後、三鷹にある神学校に行ってきました。毎年この季節に開かれる「神学生出席教会牧師と教授会との懇談会」に出席してきました。石神井教会には四年前から S 神学生が所属されていますから、この神学校での懇談会に毎年続けて出席してきました。この懇談会で取り上げられ、話し合われることは、毎年大きく違いはありません。将来、伝道者として教会や学校に遣わされていくことになる神学生を、教会と神学校がどのように連携して支え、育てて行ったらよいのか、情報交換をするのです。

このような教会と神学校の連携は、一年に一度の懇談会だけでなされているわけではありません。日常的に連絡を取り合い、互いの働きと役割を確認し合うということが重ねられてきました。伝道者を生み、育て、送り出すことは、神学校だけでなされることではないからです。教会と神学校がうまく連携して始めて、伝道者は生みだされ、育てられ、送り出されていくことができるでしょう。

わたしたちの属する日本基督教団で神学校を卒業するなどして「教師」の職に任じられる伝道者の数は、この四半世紀で三分の一以下にまで減少しています。神学校に在籍する神学生の数も、大きく減りました。教団の「教師」を養成する神学校は六校ありますが、近年、ほとんどの神学校で毎年の入学者が片手で数えられるほどにすぎません。教団の信徒数自体が、この四半世紀で三割減少していますから、伝道献身者が以前のように生まれないのは必然かもしれません。

そのような中で献身志願されている神学生は、貴重な存在です。わたしたちの教会の S 神学生もそうですが、夏から秋にかけての季節、神学生たちは、いくつもの教会を梯子して、礼拝の奉仕に勤めます。招きたい教会の数に対して、神学生数が少ないからです。わたしたちの教会でも、10 月の「神学校日」には、普段ほかの教会に出席されている神学生をお招きして、特別な奉仕をしていただこうとしています。

引く手あまたの状態にある神学生たちは、どの教会に行っても歓迎されます。伝道者を志す者を教会が歓迎するのは、大切なことでしょう。けれども、彼らをあまりに持ち上げすぎてはいけないのかもしれません。

主イエスは、ご自身が去られた後のことを、弟子たちにお委ねくださいました。弟子たちが「教会」となるように、道を示してくださいました。けれども、教会の中心に弟子たちを据えられたわけではありません。弟子たちの集められたところで、主イエスは、一人の子供を呼び寄せ、彼らの中に立たせ（マタイ 18:2）られました。弟子たちの教会の真ん中に立つべきは、弟子たちではなく、一人の子供、小さな者の一人（同 18:6）なのです。

だれも軽んじられていない

百匹の羊を持つ人が、一匹の迷い出た羊を捜すために、九十九匹を山に残しておいて、出かけていくという「迷い出た羊のたとえ」は、「ルカ福音書」にも伝えられています（ルカ 15:3~7）。新共同訳聖書では、「見失った羊のたとえ」という見出しが付けられています。子どもでも直感的にわかるこのたとえは、弟子たちの教会で大切に語り継がれたのでしょう。現代の教会でも、子どもたちに必ず教えるたとえの一つです。

こどもの教会（教会学校）は、夏のプログラムで「ルカ福音書」19章の「ザアカイ」の逸話を取り上げました。7月から8月にかけて一カ月半かけて取り組んだこのプログラムの中、関連する聖書の箇所を合わせて子どもたちと分かち合うようにしましたが、その中に、このたとえが含まれていました。事前に奉仕者たちと準備の学びをした際、一人の奉仕者が、このたとえがどうしても納得いかない、とおっしゃいました。その方は、長く幼児教育に携わって来られた方です。一匹の迷い出た羊を捜すために、残りの九十九匹を放り出していくようなことはできない、とおっしゃるのです。

そのとおりかもしれません。迷い出た一匹を捜しに行っている間、山に残しておいた九十九匹は、いったいどうしたらよいのでしょうか。導いてくれる者がいなくなって、九十九匹は収拾がつかなくなるかもしれません。羊飼いがいない間に狼がやって来て、群れを襲うかもしれません。それなのに、迷い出た一匹だけにかまけるのは、無責任ではないか。

もちろん、主イエスは、無責任なことをお教えになられたのではないでしょう。主イエスは、このたとえを、弟子たちに向けてお教えになられました。弟子たちは、すでに主イエスの近くで歩ませていただいていた者たちです。山に残される「九十九匹」は、その弟子たちに他なりません。わたしたち、すでに主イエスの近くに歩むことを知るようにされた者たちに他なりません。

その「九十九匹」も、迷い出ることがあるかもしれません。「一匹」になることがあるかもしれません。その「一匹」、その「小さな者の一人」を、捜し出しに行かれるのは、主イエスご自身です。主イエスが、その「一人」を捜し出し、連れ戻し、「九十九匹」の群れに加えてくださるのです。

それがたとえ「小さな一人」にすぎなくても、その一人を捜し出してくださった主イエスの名のもとに、わたしたちは、教会となるのです。だれも軽んじられることのない、教会となるのです。その一人は、たとえどんな者であっても、主イエスがお連れくださる一人なのです。その一人を軽んじてはなりません。ただ、主イエスに見出された一人として、受け入れるのです。自分もまた、主イエスに見出された一人であったことを思い起こして、受け入れるのです。そこに、主イエスは、おいでくださるでしょう。